

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500570		
法人名	レビー・ケア株式会社		
事業所名	レビーグループホームおゆみ野苑		
所在地	千葉県千葉市緑区おゆみ野南6-48-2		
自己評価作成日	令和2年1月18日	評価結果市町村受理日	令和2年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあるが自然も多く残り、広い庭に面した裏山にはキジやウグイスも見ることが出来ます。庭には縁台や畑があり、野菜等皆が楽しめるものを植えています。自治会に加入しており、夏祭り、地域清掃等に参加しています。近くに公園やショッピングセンターもあり、散歩、買い物等に利用しています。苑内イベントは月1回以上開催しており、イベントボランティアも多数来苑されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR外房線鎌取駅から車で10分の千葉市郊外に立地した2階建ての施設です。近くに公園、病院、ショッピングセンター、ゴルフ場等があり、訪問、買い物、散歩等に恵まれています。建物内は大小の浴場等共有部分が広く、広い菜園には各種野菜が植えられ、収穫と食事を利用者は楽しんでます。
 2. 新型コロナウイルス対策の為、利用者の手洗い、手摺り・ドアノブ等の消毒と来訪者の手のアルコール消毒・マスク着用(準備品あり)を促しています。
 3. 職員の定着率は高く、職員は利用者本位のサービス(職員が利用者と一緒に食事を楽しみ、浴場は大浴場か個浴が選択でき、毎月イベントを実施する等)を行っており、各種改善事例(オムツ、歩行、食事等)が見られる他、評価に際し実施した家族アンケートでも好評です。
 4. 医療面では、内科医の月2回訪問診療と24時間対応、週1回の訪問看護師と訪問歯科医の体制で、利用者、家族に安心感を与えており、看取りについても昨年4名行い、家族から感謝されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他、ホーム独自の理念があり、玄関の目立つ所に掲示している。またホームの理念を取り入れたことにより、地域を意識した支援を心がけている。	運営法人の理念と地域密着を織り込んだホーム独自の理念を所内に掲示し、毎月の職員会議時に職員は唱和・確認し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板等で地域の情報を得ている。	自治会に加入し地区行事に参加する他、ボランティアの受け入れ(楽器演奏等)を行っています。回覧板で清拭用の綿布寄付依頼を行い、時々地域から寄付して貰っています。近くの幼稚園・保育園との交流を検討していましたが、最近の新型コロナウイルス騒ぎの為中断しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にホームの一部敷地をゴミステーションとして提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あんしんケアセンター、社会福祉協議会の方に出席を頂き、意見を伺っている。	会議は、年4回、地域包括支援センター、社会福祉協議会(2名)、ホーム長、管理者で開催しています。議題に、現状報告、行事報告、経営移譲、災害対応等を取り上げて意見交換し、サービス向上に活かしています。	より実のある会議にする為、家族や利用者、自治会等地域の方、他のグループホーム管理者等の学識経験者等の参加を促し、活発な意見交換を行い、サービス向上につなげる事が期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市介護保険事業課、緑区社会援護課、介護保険課、福祉相談窓口等と入居者についての相談や近況報告を通じて連絡を密にしている。	ホーム長は市や区の担当者に常に報告・相談しています。運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの出席があり、その情報・意見を運営に役立てています。又行政・関係機関からの利用者受入れ要請には、状況の許す限り応えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに、社内研修も年1回行っている。玄関は昨今の社会情勢により施錠している。	昨年身体拘束廃止委員会を発足させ、年1回開催し、社内研修も年1回実施しています。又交通量の多い通りに面している事や防犯の為、昼間も玄関を施錠していますが、利用者に拘束感を抱かせない様職員が見守っています。	身体拘束廃止委員会は3か月に一度定期的に実施することとなっているので、職員研修も含め、限られた時間・マンパワーを考え、効率的に、確実に実施する事が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者虐待マニュアルを作成するとともに社内研修も年1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修で理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書または重要事項説明書に明示し、本人や家族への権利や義務について十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付ボックスを設置している。また面会時、電話、家族会等で意見、要望を聞いている。	利用者からは日ごろ、家族からは訪問時、電話連絡時、家族会(年3回開催し毎回4～5名参加)で意見・要望を聞き、運営に反映しています。外部評価にあたり実施した家族アンケートでも「よく話を聞いてくれ、柔軟に対応してくれる」と好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議等で職員の意見を聞き、運営に反映している。また随時個人的に意見を聞く場を設けている。	毎月の職員会議時には経営者も参加し、職員の意見・要望を聞き、運営に反映させています。ホーム長は随時個人面談を行い、意見・要望を聞く様に努めています。本部に相談窓口等もあり、職員の定着率はかなり高いと思われます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員の評価を行い、何かあれば面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では全体会議等で社内研修を行っている。また外部研修の情報を出し、参加の支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会や系列の事業所との交流や情報交換により、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等により情報収集を行い、本人とのやり取りで思いを傾聴し、要望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい環境を作り、ホームでの生活に対する不安や要望を伺い、安心して利用して頂けるようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の意見、要望を聞き、必要なサービスを見極めて対応している。必要に応じて他のサービスも選択できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、出来ない事を見極め、出来ない事は職員がさりげなく支援し、一緒に行う事で密な関係を作ることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便り、面会時、電話等で日頃の様子を報告し、家族との連絡を取れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方にも面会に来やすい環境を作るとともに、電話の取次ぎも積極的に行っている。	入居前から近所付きあいのあった人、50年来の友人や、親戚、家族等、月1～2回程、面会に来る人が多いようです。中には週1～2回訪れる人もあり、地域に暮らす馴染みの友人、知人との継続的な交流ができる様支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握に努め、食事の席、レク等配慮している。コミュニケーションが取りにくい方も職員が間に入り、孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も交流を持ち、いつでも相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族等の要望、意見を伺い、本人の思いに沿ったサービスになるように努めている。意思確認の困難な方は、日常の会話や表情から思いを汲み取っている。	日常の会話や雑談の中から、思いや意向を汲み取る様努めています。最近利用者からBS放送で野球観戦がしたいとの希望があり、現在本部と相談・検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の他、関わっていた方から話を伺い、その人らしい暮らしが続けられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子や仕草等から心身の状態を観察し、出来る事、出来ない事の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望を伺い、日々の状態や個人記録等からカンファレンスを行い、介護計画を作成している。3か月に1回介護計画を見直し、必要があればカンファレンスを行っている。	本人、家族には日頃の関わりから思いや意見を聞き、介護計画に反映しています。状態変化時や課題となる事がある際は、ホーム長、計画作成担当者、スタッフ、医師(助言含め)等で意見交換し、実情に即した介護計画の見直しを行っています。	家族アンケートで、計画について「話し合っていない」との回答が3名あります。計画原案を利用者、家族に分かりやすい言葉で説明し、計画内容への理解度が増してこれまで以上に意見が出るようになることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人ファイルに記入し、職員が共有することで介護計画やサービスに反映するようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の要望に沿えるように努めている。希望があれば家族が宿泊することも出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによるイベントの受入れ、町内会の観覧版、あんしんケアセンター、社会福祉協議会からも情報を得られるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月2回の往診があり、24時間対応の体制を取っている。必要に応じて専門医の紹介も行って頂き、連携を密にしている。	協力医療機関の内科医による月2回の訪問診療、週1回の訪問歯科医等、複数の医療機関と定期的な受診の他、状態変化時や健康面の心配事がある場合に、都度相談できる関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより月4回の訪問を実施している。また24時間対応の体制を取っており、相談、連絡出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、病院側と連携を密にして、入院中の状態を把握している。退院時にはカンファレンスを開催し、その後の支援を適切に行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化や重度化が予想される場合は早めに家族と相談している。昨年看取りを4件行い、家族に感謝されました。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の対応については入居時に同意書を交わしています。急変した場合は直ぐ対応して貰えるよう、協力医療機関とも密に連携を図っています。医療との緊密な連携により昨年は4件の看取りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命やAED使用法の訓練を実施している。実際の対処はマニュアル化し、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間想定と夜間想定の実施している。地域の方には施設がある事は浸透している。	消防署立ち合いと夜間想定を含めた自主訓練を実施しています。一連の防火装置・機器は完備し、ヘルメット、電源等の防災用品を含め4日分の備蓄があります。今回の新型コロナウイルス対策の為、来訪者に手のアルコール消毒とマスク着用(準備品あり)励行を、丁寧に促しています。	昨年の千葉県下の台風・大風等最近大規模災害が増えていることを考え、関係者で話し合い、年1回の災害訓練の実施(土砂・浸水等)と備蓄の数量見直しが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者への呼びかけや話し方にも常に注意し、特に排泄面ではプライドを損ねない声掛け、誘導を行っている。	トイレ誘導では目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮がされていました。研修会の際に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応等個人情報保護の徹底を図っているか、確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を表出しやすいよう言葉掛けを工夫し、本人の思いを察し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決まっているが、本人の要望を伺いながら無理強いせず、自分のペースで生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望や季節に合ったものを本人と一緒に選んでいる。男性の髭剃り、女性の化粧も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者に発注しているが、入居者の要望に沿えるようレシピを工夫したり、時には入居者の要望のメニューに変更している。盛り付けや片付け等は入居者と一緒に行っている。	献立と食材は宅配サービス利用ですが、たまにパンが食べたいとの希望があれば、随時献立の変更もしています。庭で収穫した枝豆や、夏野菜(ミニトマト、ナス等)が食卓に出る事もあります。テーブルを囲んで一緒に同じものを楽しく食べる環境作りも大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者に発注しているので、栄養バランスは適切である。食事形態も入居者に合わせている。10時、15時、入浴後、散歩後等にも水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、義歯は夕食後預り、洗浄剤使用後翌日に渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努め、記録をつけながら個々に応じたトイレ誘導を行っている。	殆どの利用者がリハビリパンツを着用している状況ですが、個々人の排泄パターンを参考にしながら、尿意のない利用者にも声掛け誘導し、可能な限りトイレで排泄できる様、自立に向けた支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便記録をつけ、排便の確認をしている。その方の水分量や運動量もこまめに見ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大浴場、個浴のいずれかを本人の要望により入浴を楽しんでいる。	原則週2回の入浴支援をしています。大浴場、家庭風呂があり、希望に合わせて選択でき、殆どの利用者は大浴場を選択し、寛いだ気分で満足しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は個々思い思いに過ごされている。	ひ	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は鍵のかかる場所に保管し、薬の用法・効果・注意書きも置いてある。服用時は二重チェックを徹底し、完全に飲み切るまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの習慣や趣味を活かし、掃除、洗濯等を一緒に行っている。普段のレク、月1回程度のイベントにより楽しみを見つけられるようにする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、買い物を好みに応じて行っている。家族との外出も積極的に支援している。	施設の裏にはゴルフ場や、近くに公園があったりと自然環境に恵まれており、短時間ですが気分転換、外気浴を兼ね、車いす介助の利用者(6、7名)も戸外に出かけられる様支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族からお小遣いを預り、職員が台帳に記入し管理している。個々の要望に応じて買い物等職員が付き添いながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用、取次ぎはいつでも行っている。手紙等は必ず本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように明るさ、室温の調整をしており、冬はインフルエンザ対策として加湿器を使用している。リビング、廊下、居室には季節を感じるもの、イベント等の写真を飾っている。	時節柄新型コロナウイルス対策の為、所内では利用者の手洗いと毎日の手摺り・ドアノブ消毒を行っています。普段は温度・湿度が調節されたリビング兼食堂で、利用者はゆったりと思いいい過ごしています。体操、うたた寝、テレビ、トランプ、カラオケ等の他、庭園での野菜の収穫や外気浴を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置いたり、中庭に縁台を置いたり一人もしくは数人になれる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や写真、生活用品を置いて頂き、本人の好みの居室にしている。	居室は、エアコン、クローゼット、洗面台、カーテン・ベッド(以前の利用者の寄付物)が備え付けで、清潔で、適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様になっています。職員は、利用者の車いす利用者が多くなっている(6~7名)事を考え、整理・整頓し、動線確保に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりを設置している。トイレの手すりは可動式で車椅子の方でも安全に使用できるようにしている。		